

東議員（民主県政会）

令和8年2月20日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）高校の適正規模に対する考え方について

少子化の進展やデジタル技術の普及等の現状を踏まえ、教育効果の上がる高校の適正規模とはどうあるべきか、教育長の所見を伺う。

（答）

高等学校の規模につきましては、生徒の通学時間など地理的アクセスに留意しつつ、ICTの活用による遠隔授業等を含めた生徒の学びの選択肢と集団の中で切磋琢磨できる環境を整える観点から、地域ごとに状況が異なることを考慮する必要があると考えております。

情報通信技術を活用した教育活動といたしましては、令和3年度から、中山間地域等に位置する県立高等学校に遠隔教育システムを導入し、遠隔授業を実施してきたところでございますが、専門の教員による授業を受けることができるなどの効果がある一方で、

- ・ 個々の生徒のリアルタイムでの状況把握や学習支援に限界があることや、
- ・ 配信校と受信校との間で事前準備や時間割などに多くの調整が伴うことなどから、

対面授業とICTを活用した遠隔授業のそれぞれの良さを効果的に組み合わせることが重要であると考えております。

こうした中、今後の高等学校の在り方といたしましては、地域の地理的条件やICTの効果的な活用も踏まえつつ、AI等のデジタル技術を活用して、地域の持続的な発展を支える人材など多様な人材を育成するため、学校統合と学科改編を組み合わせることなどにより、少子化が進展する中であっても、生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨しながら多様な体験・学びができるような、これからの社会を生き抜く子供たちにとって魅力ある教育環境を整備していく必要があると考えております。

このため、令和6年3月に策定した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画・第2期」におきまして、基本とする学級数として、1学年6学級を念頭に置きつつ、

- ・ 中山間地域の学校については、1学年2学級から6学級、
- ・ 中山間地域以外の学校については、多様な選択科目の設置や、様々な部

活動、組織的な指導体制を組むことができるよう、
1 学年 4 学級から 8 学級としているところでございます。

今後とも、地理的条件や I C T の効果的な活用を踏まえながら、これからの社会を生き抜く力を育む魅力ある高等学校となるよう、必要な教育環境の整備に努めてまいりたいと考えております。